

普及活動情勢報告（令和4年3月分）

須崎農業振興センター農業改良普及課

新型コロナウイルス感染症の収束を願って ～各種支援策の周知～



新型コロナウイルス支援策を説明する普及指導員（右）

2月14～18日、当課はJAに出荷していない花き生産者8戸と果樹3生産組織を対象に、2月上旬に公表された事業復活支援金、新型コロナウイルス感染症対策臨時給付金、新型コロナウイルス感染症対策雇用維持臨時支援給付金について個別巡回で周知しました。

巡回時には各種支援策の概要や給付金額の計算方法について説明しました。生産者からは「去年は比較的単価も好調で販売額も復活した」「対象にはならないと思うけど一応計算してみる」など令和2年度とは違い、直近は好調な売上げが続いているといった嬉しい反応がありました。

当課は今後も各関係機関と連携し、迅速な情報共有に努め、新型コロナウイルスの影響を受けた生産者を支援していきます。

シシトウ収穫作業の効率化に向けて ～作業方法のカイゼン～



カイゼンの取組について説明する普及指導員

シシトウ栽培において作業時間の多くを占める収穫作業の効率化を目指して、作業を動画で撮影し、効率的な作業方法を確立、普及するための取組を始めています。

2月18日に須崎市内の対象農家に対し、取組の主旨、取組内容、動画の撮影方法等について説明し、今後どのようなスケジュールで進めていくかを協議しました。

取組について「それぞれの作業者の細かい作業までは把握していないので見てみたい」「新規就農者等の始めて作業する人の参考になるとよい」といった好意的な意見が聞かれました。

今後も対象農家及び従業員理解を得ながら取組を進め、作業効率の向上に繋がるよう支援していきます。

JA 土佐くろしお管内の産地振興について ～関係機関が一同に介して～



活発に意見交換する参加者ら

2月22日に、JA土佐くろしお管内農業振興連絡協議会で、JA、3市町、振興センターとで、各戦略チームの活動報告や情報共有を行いました。

活動報告では、地域振興、販売、主要9品目のチーム長が補足や質疑を交えて説明し、1年間の成果を共有しました。また、振興センターからはIoPクラウドの取組、IPM技術の導入状況、収入保険、JAからはミョウガ生産拡大クラスター、BIツールの活用等を説明し、管内の動きについて認識を深めました。市町からは「戦略チームの取組や産地の動きがよく分かった。施策を検討する際の参考になる。」との声が聞かれ、関係機関との連携強化に繋がる会となりました。

引き続き、当課は関係機関とともに産地振興に向けた活動を展開していきます。

「ささば営農組合」 将来を見据えて ～総会～



農地保全とブランド米について、熱く協議する組合員

2月25日、中土佐町笹場にて、「ささば営農組合」総会が開催され、組合員8人、関係機関3人の参加がありました。

会では、来夏から導入するコバエの活用について、また、米のブランド化に関する試行販売報告などが出され、「地元の農地を守る」「こだわった米を売るべき」など熱く協議されました。

当課から、飼料用米の穂肥を施用した実証試験で、玄米重、整粒歩合、千粒重が無穂肥より上回った結果の説明を受け、無穂肥栽培の組合員からは「地力に応じて穂肥が必要」と前向きな意見が出されました。

当課は今後も各関係機関と連携し、飼料用米増産に向けた指導を行っていきます。

津野山地域営農の検討 ～津野山地域営農連絡協議会全体会～



真剣に協議する協議会メンバー

3月2日、JA高知県高西地区津野山営農経済センターにおいて、梶原町、津野町、JA、地域本部、西部家畜保健衛生所、振興センターの計18名が出席し、津野山地域営農連絡協議会全体会を開催しました。

会では、R3年度に実施した園芸振興や販売促進など11プロジェクトの活動報告とR4年度の13プロジェクト計画について協議しました。個々のプロジェクトは、高収量、高品質化や担い手確保など、日頃から当課が支援している取組であり、改めて地域を守る方向性の確認ができました。

今後も、農業関係機関と連携しながら、津野山地域の農業振興を全力で進めていきたいと考えています。

データ活用でみえること ～「データ駆動型農業の実践」～



アドバイザーによる説明

3月14日、「ミョウガのデータ活用方法」について、IoTプロジェクト村川アドバイザーを迎え、JAと当課で検討会が行われました。

ミョウガは生理生態等不明な部分が多く、以前より「E品が多い年は、収穫終了が早い」「春の気温が高いと夏収量が少ない」等俗説があります。これらの俗説を解明し、栽培指導に活かすためデータの活用方法についてアドバイスを受けました。検討会では出荷データと、気象データの詳細分析について進めていくこととしました。

今後も、当課はデータ分析スキルを強化し、生産者への栽培指導に活用していきます。